

8.24 80年代を闘う 全国労働者交流集会を成たせよう

日刊 動労千葉

80.8.20

No. 512

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)四三三・七二〇七

仙台で開催

主催 全金本山労組、協賛 動労千葉・全造船機械石川島分会

「我々全金本山労働組合も八〇年代を迎えて、本山闘争の勝利と労働運動の戦闘的再生をどうかちとるかが問われています。来る八月二十七日・二十九日の全国金属定期大会を目前に、我々自らの一大飛躍をかけて、右傾化に抗して闘う労働運動の潮流形成に幾分でも寄与しうればと思ひ左記の要領で、『本山闘争勝利・三里塚労農連帯・首切り合理化粉碎ノ八〇年代を闘う全国労働者交流集会』を呼びかけます。……」

この呼びかけにもとづく、「八〇年代を闘う全国労働者交流集会」は、全金本山労働組合の主催により、八月二十四日正午より仙台市白鳥ビル大ホールで開催される。

動労千葉は、八〇年代を闘う労働運動の潮流形成へむけて一大飛躍をかけて、決起した全金本山労組の呼びかけにこたえ、支援連帯をさらに強固にし、全国の闘う労働者・労働組合の結集を呼びかける立場から、集会協賛団体として全力をあげて取組むことを決定した。

8・24集会の成功で 八〇年代勝利へつき進もう

全金本山労組は、「一人の首切りも許さない」という労働組合の原則をかがげ、一〇年もの永きの間、権力・資本、右翼ガードマン、御用組合による弾圧・組織破壊攻撃、さらに全金本山全員へのロックアウト——別棟攻撃にも屈せず闘い抜いてきた。

しかも、昨年三月全金宮城地本は「これ以上本山闘争は闘えない」と規定し、本山資本の「解雇撤回抜きと原職就労抜き」に呼応して、原則的に闘う全金本山の組合員三五名を除名処分にし、闘争の敗北的集約を策動してきたのである。これに対し全金本山は、闘いの防衛と資本への総反撃と八〇年代を闘う民間労組の戦闘的再生を掲げて本年二月分離独立し、新労組を結成し、闘いを前進させてきた。

体制的危機の深刻化の中にあつて、多くの既成労働運動が右傾化し、支配の側に身をすり寄せ、労働者を資本に売り渡し、侵略戦争の尖兵へ仕立てあげんとする誤まった方向に進むなかにあつて、この全金本山労組の闘いは、あくまでも労働運動の原則を堅持し、八〇年代労働運動の戦闘的再生の道をひらくカギを有している。

8・24集会の成功を共にかちとり、本山闘争への支援・連帯を通じて、日本労働運動の戦闘的再生をかちとるため、前進しよう。

三里塚ー本山ー動労千葉の赤いきずなを

動労千葉は、第三回定期大会で確認された「三

五万人体制粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争を水路に、激動の八〇年代を闘い抜く自前の労働運動創造」へ向けた取組みの一環として「3・2全国労働者集会」を開催し、全国の闘う労働者の結集へむけて大きな前進をかちとってきた。そして「3・2集会路線」ともいうべき、①三里塚を闘う労働運動、②企業防衛主義・排外主義と対決し、原則的な生活権利防衛の闘い、③反動・反革命との対決、④右翼労働統一反対の四つの柱を基軸とした新たな戦闘的全国潮流形成を目指し闘ってきた。

この闘う路線は、三里塚・反合春闘、5・25三里塚7・13東西両空港粉砕闘争を通し、動労千葉、本山労組を先頭に確実に前進している。われわれは、動労大改革、八〇年代労働運動の階級的再生をかけて、三里塚ー本山ー動労千葉のさらなる連帯を強化し、今秋反合ー三里塚闘争へ決起しよう。

全金本山支援 夏季物資販売額

支部	販売額
新小岩	58,120
津田沼	182,330
幕張	217,170
千葉	93,910
蘇我	12,800
木更津	43,160
館山	65,800
勝浦	67,900
佐倉	30,300
成田	106,930
本郷	124,390
学園	44,580
総計	1,049,890

御協力ありがとうございました。